

環境影響評価審査書に対する事業者の主な対応

019	山梨東線新設工事	
項目	審査書の指摘事項	事業者の対応
総括事項	<p>計画ルート一帯は、県立自然公園に指定され、ハイキング等に利用されていることから、自然環境の保全が強く求められているが、本事業は環境にかなりの影響を及ぼすことになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 送電線路のルートの選定に当たっての環境上の評価が十分でないため景観の視点を踏まえた検討の経過とその評価を明らかにすること。 昭和61年3月23日の異常気象（降雪）により県内で起きた鉄塔の倒壊事故を教訓に倒壊防止に対する配慮をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ルートの選定に当たっては、広域調査地域内に4本の候補を選定して、景観、動物、植物、地形、地質、法規制等による制約について評価し、それを踏まえて決定した。 設計については、異常気象時の諸要素を再検討し、一般鉄塔より余裕を持たせ、更に、難着雪リングを取り付けるなど安全性を高める。
廃棄物	<p>残土捨場における雨水流未処理が明確でない箇所があるため、沢及び林床に土砂の流出や林床の浸食の恐れがあることから、これらを防止するために、土砂流出防止計画を細部にわたり見直すこと。</p>	<p>土砂流出防止対策としては、斜面最下段に予備しながら工を設け、フィルター材を張ることで対応する。また、林床の浸食の恐れに対しては、確実に一の沢へ連続させることにより、安全性に配慮する。</p>
動物	<p>工事騒音等による動物の生息環境への影響を極力考慮するため、動物の繁殖期に配慮して、工事工程を見直すこと。</p> <p>鉄塔の基礎の掘削工事に当たっては、動物の転落防止対策について検討すること。</p> <p>土砂、濁水により水生生物へ影響を及ぼさないよう対策を行うこと。</p>	<p>ほ乳類、鳥類の繁殖期には大きな騒音が発生する機器の使用をさける。</p> <p>転落防止対策としては、柵等にネットを張る。</p> <p>水生生物への影響については、二重のしがら工やしがら工の前にフィルターを設置することにより、土砂流出を防止する。</p>
植物	<p>鉄塔周辺の工事予定区域の林相を早期に回復させるための施工方法を検討、実施すること。</p> <p>残土捨場の表土の保管方法と、植栽の施工方法について明らかにすること。</p>	<p>工事予定区域では萌芽再生を良好にするため、伐採時期を11月、12月及び3月とする。また、残土は仮置きせず、直接、搬出することとし、資機材の設置場所には、作業台を設置することにより、根株等の保護を図る。</p> <p>表土については、残土捨場の一部に堆積仮置することとし、しがら工により崩落防止を図るとともに、表面をシート張りにする。</p>
景観	<p>視点と背景の山並みとの関係によっては、数基の鉄塔が目立ちやすいと考えられるので、鉄塔の塗色の効果や色の選択を検討し、周囲の自然に溶け込ませること。</p>	<p>季節等による背景の色の変化を含めて検討し、総合的に最も調和度が高いと思われる色を選定し、当初計画では1基であった塗色を全体として7基の鉄塔について行う。</p>